

魅力発信！えひめ農業 NOW

令和5年5月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ(※1)で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1 掲載場所：ホーム＞仕事・産業・観光＞農業＞農業の魅力発信

※2 この動向は、5月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570

愛媛県松山市一番町4丁目4-2

(TEL) 089-912-2558

(FAX) 089-912-2564


<http://www.pref.ehime.jp/noukei/>


目次



目次	1
5月のトピックス5選	3
インフルエンサー等を活用し、うま茶の産地やお茶を楽しむ情報を発信	3
かんきつ大苗の育成管理を現地指導	3
七折小梅産地の再興を目指して	4
技術習得や経営管理能力向上に向けた研修を実施	5
えひめ農業NOW	6
■東予地方局 地域農業育成室	6
ネットワーク法人に対し若手人材育成の取組みを提案	6
さといも親芋の副芽を利用したセル苗移植を実施	6
別子山地域出荷体制等検討会を実施	7
校長会にて地産地消・食育推進事業を説明	7
一次産業女子組織活動の活発化を支援	8
■東予地方局 地域農業育成室 四国中央農業指導班	8
「天満の未来農業を考える会」が本格始動	8
花木栽培実証ほの調査を開始	9
いちご育苗講習会を実施	9
■今治支局 地域農業育成室	10
「甘平」の裂果軽減に取り組む	10
草刈り作業の安全講習会を開催	10
麦の品質向上に向け、適期収穫を指導	11
食中毒予防と適正な食品表示を指導	11
■今治支局 地域農業育成室 しまなみ農業指導班	12
レモンでのドローン防除の効果実証の実施	12
今治地域の鳥獣被害防止に向け、関係者が情報共有	12
■今治支局 産地戦略推進室	13
有名イタリア料理シェフを交えたマイナー野菜の生産・販売実証	13
マルシェ出展から広がる新たな販路開拓活動	13
■中予地方局 地域農業育成室	14
かんきつ基盤整備園での土づくりの重要性を啓発	14
ユーカリの安定生産対策を協議	14
■中予地方局 地域農業育成室 伊予農業指導班	15
県内初「媛かぐや」の産地育成にチャレンジ	15
■中予地方局 地域農業育成室 久万高原農業指導班	15
高冷地を活かしたシンテッポウユリの栽培実証を開始	15
「雑穀」で地域農業を活性化	16
■中予地方局 産地戦略推進室	16
「さくらひめ」フラワーアレンジメント体験会を開催	16
■南予地方局 地域農業育成室	17
高級菓子原料向けのびわ収穫始まる	17



広見川等への農業排水軽減に向けた取組み	17
■南予地方局 地域農業育成室 鬼北農業指導班	18
「高精度水稻湛水直播機」を利用した水稻の直播栽培を実証	18
■南予地方局 地域農業育成室 愛南農業指導班	18
「河内晩柑」のせん定講習会で省力化を推進	18
「ひめの凜」全量プレミアム生産を目指す	19
■南予地方局 産地戦略推進室	19
生産者がスイートコーンの美味しさを直接アピール！	19
「媛かぐや」の栽培準備講習会を開催	20
青梅出荷拡大へ若手農家がチャレンジ	20
つるむらさきの産地化に向けた取組み	21
■八幡浜支局 地域農業育成室	21
作業の労働力確保に向けた意見交換を実施	21
■八幡浜支局 地域農業育成室 大洲農業指導班	22
有名シェフが大洲産ラディッキオを視察	22
「シャインマスカット」の開花異常「未開花症」の解明に向けて	22
■八幡浜支局 地域農業育成室 西予農業指導班	23
西予市に若手女性農業者組織誕生	23
■八幡浜支局 産地戦略推進室	23
ネギ産地づくりに係る業務用ネギ需用動向調査を実施	23
岡山理科大学との連携によるかんきつ産地での新たな鳥害軽減対策の検討	24
省力機械によるさといもの土入れ実演会を開催	24
■農産園芸課 高度普及推進グループ	25
麦の採種ほⅡ期審査の実施	25
さといも出芽状況等をリアルタイム通信	25
さといも優良種芋増殖技術講習会を開催	26

5月のトピックス5選

標 題	インフルエンサー等を活用し、うま茶の産地やお茶を楽しむ情報を発信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年5月8日	場所	大西茶園（四国中央市新宮町）	
指導対象	うま茶振興協議会（1人）	連携機関	四国中央市	
普及指導内容	<p>○県内有数の茶産地である四国中央市の山里を背景に、生産者や商品等を県内外に広く紹介するため、著名インフルエンサー（ゆりまん氏：四国中央市出身）を活用した産地の情報発信を支援した。</p> <p>○今回は大西茶園にて、同じ茶樹でも生産過程と製茶の工程の違いによって様々な種類や品質が生まれてくることを説明し、茶の種類に見合った飲用の楽しみ方を提案した。</p>			
結果と今後	<p>○消費者志向の多様化等により急須で茶を煎れる機会が減少している中、産地の紹介に加えて、新たなファンづくりとして消費者（特に子育て以降の女性）視点に立った情報発信を行うこととしており、フォロワー数約5.3万人、約64万PV数を誇るゆりまん氏による情報発信は全5回を予定している。</p> <p>○このほか、新聞社とコラボした広告やECサイト販売等も予定しており、今後も四国中央市産の茶（うま茶）の認知度向上や消費拡大に向けた活動を支援していく。</p>			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>左：ゆりまん氏（右）が上手な煎れ方や出来栄えを取材</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>右：新聞社とコラボしたブランド茶「結の霧ひめ」の紹介冊子</p> </div> </div>				

標 題	かんきつ大苗の育成管理を現地指導		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年5月15日	場所	今治市上浦町井口地区	
指導対象	農業研修生、JA研修センター担当職員（3人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○豪雨被害を受けた上浦地区再編復旧園地に来年3月に定植する2年生大苗（約5,000本）を育成するため、1年生苗木（令和5年3月ポット定植）の芽かき等の育成管理について指導した。</p> <p>○品種（はれひめ、レモン、甘平、紅まどんな、紅プリンセス）の特性や生育状況に合わせて芽かきを行い、主枝候補として選定する芽の基準や不要な芽の処理について、実演しながら技術習得を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○研修生等は、芽かき作業を行うにつれて除去すべき芽の判断が的確に行えるなど、かんきつ苗木の育成管理について理解を深めた。</p> <p>○今後、苗木の生育状況を見極めながら更に芽かきを進めるとともに、病害虫防除のための薬剤散布や施肥、かん水など大苗育苗に向けた技術支援を行っていく。</p>			
 <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;"> <p>左：研修生が芽かき作業を実施</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>右：芽かき前後の苗木の状況</p> </div> </div>				

標 題	七折小梅産地の再興を目指して		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年5月15日	場所	砥部町七折地区	
指導対象	七折小梅生産安定プロジェクトチーム員(9人)	連携機関	砥部町、JA えひめ中央、県果樹研究センター	
普及指導の内容	<p>○七折小梅の安定生産技術の確立及び産地再興に向け、地方局予算「七折小梅産地再興支援事業」に係る七折小梅生産安定プロジェクトチーム会議を開催した。</p> <p>○着果不良の要因と対策について、開花前の高温が花の状態に悪影響を及ぼす傾向が強いことや、着花を安定させるため花芽の充実を目的とした液肥散布について報告した。</p> <p>○また、「竹内系統」など優良5系統の母樹園設置や省力化に向けた樹形改善について協議した。</p> <p>○さらに、七折小梅の販売促進活動を支援するため、生育調査結果から収穫量を予測するシステムについて紹介し、販路拡大に有効活用するよう提案した。</p>			
結果と今後	<p>○管理作業の省力化を図るため、電動農具によるせん定や樹形改善を推進した。○優良系統については、年間1haを目標に順次改植を進める。</p> <p>○本年産は同月22日から収穫が始まり、昨年より多い約50tの収穫量を見込んでいる。</p> <p>○引き続き、関係機関が一丸となって安定生産に寄与する技術実証の確立を進め、産地の再興と地域農業の振興を推進する。</p>			
				<p>左：プロジェクトチーム会議で安定生産について協議</p> <p>右：収穫期を迎えた七折小梅</p>


標 題	令和5年産キウイフルーツ花粉を収穫		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年5月7日～5月19日	場所	松野町	
指導対象	キウイフルーツ花粉生産者(3戸)	連携機関	県果樹研究センター、松野町(株)松野町農林公社	
普及指導内容	<p>○国内初の「キウイフルーツ花粉ビジネス」に取り組んでいる松野町で、花粉の収穫時期を迎えるにあたり、雄花採取のポイントを指導した。</p> <p>○収穫適期を逃さないよう、バルーン状となった蕾の見極め方を詳細に説明した。</p>			
結果と今後	<p>○新たに稼働した花粉精製機の花粉回収率が格段に向上したこともあり、今年産の花粉生産量は昨年と比べ大きく増加した。</p> <p>○引き続き関係機関と連携し、来年産の収量増に向けた栽培管理指導や、新規栽培者の掘り起こし、低コストで取り組める栽培方法の検討を行う。</p>			
				<p>左：収穫適期のバルーン状の蕾</p> <p>右：花粉精製の様子</p>

標 題	技術習得や経営管理能力向上に向けた研修を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月24日	場所	JAにしうわ本所	
指導対象	認定農業者（30人）	連携機関	八幡浜市、伊方町、JAにしうわ	
普及指導内容	<p>○八西地区認定農業者等協議会総会に併せた「経営改善研修会」開催にあたり、「肥料価格高騰を踏まえたこれからの土づくり」について講演を実施した。</p> <p>○講演では、資材・肥料が高騰する中、局地施用やかん水同時施肥、堆肥活用等による施肥低減技術の推進により、収量・品質低下をさせない効率的な施肥管理を指導した。</p> <p>○また、経営改善の事例発表では、優良経営改善表彰受賞者より女性認定農業者ならではの視点から積極的な経営改善を行った取組が紹介された。</p>			
結果と今後	<p>○出席者からは、「肥料価格が高騰し経営が圧迫される中、施肥量削減に向けた取組の一助となった」との声が聞かれた。</p> <p>○今後は、情勢に応じた各種研修会等により、認定農業者が地域農業の先導的な役割を果たし、地域農業の発展に寄与するための支援を行う。</p>			



左：女性認定農業者の
経営改善事例発表
右：当室職員の講演


えひめ農業 NOW


標 題	ネットワーク法人に対し若手人材育成の取組みを提案		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月9日～29日	場所	西条市小松町石根	
指導対象	(株) あぐりサポートいわね	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	<p>○西条市小松町石根地区で2農業法人により発足したネットワーク法人「(株) あぐりサポートいわね」が定期的開催する運営委員会において、若手人材の確保による経営体の強化について提案した。</p> <p>○同法人は JA 周桑育苗センターにて、小松町内の水稲育苗管理に取り組んでおり、播種後、約25日間かけて芽出し及び緑化管理を行う。その後、6月5日から20日までの田植に向けて「ひめの凜」など3品種の育苗箱13,760枚を7回に分けて搬出する。</p>			
結果と今後	<p>○継続的な提案の結果、今年度正式雇用した研修生が今回の育苗管理の責任者として従事することになった。</p> <p>○同法人は2農業法人が所有する農地や機械の権利移動を進めているところであり、育苗管理以外の生産活動はまだ十分に行えていない。</p> <p>○引き続き、法人の構成員や関係機関と連携しながら経営の基盤強化を図るとともに新規雇用者の育成を図る。</p>			
				<p>左：水稲苗の搬入作業 右：育苗中の苗</p>



標 題	さといも親芋の副芽を利用したセル苗移植を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月19日、26日	場所	JA えひめ未来西条あぐりセンター	
指導対象	JA 職員（4人）	連携機関	JA えひめ未来	
普及指導内容	<p>○さといもの栽培面積の拡大に伴い、種苗の定期更新による供給体制整備が必要となっていることから、親芋の副芽を利用したセル苗による優良種苗生産技術を活用した低コストで実現可能な優良種苗の確保対策について JA 指導員へ説明した。</p>			
結果と今後	<p>○5月19日（農水研での講習会で採取）及び5月26日に合計482本の副芽を採取し、セルトレイへ移植した。</p> <p>○今後、JA 職員が乾燥等に注意してかん水等の管理を行い、6月下旬に定植する予定。</p>			
				<p>左：副芽をセルトレイへ植付け 右：管理中の副芽（6/1）</p>



標 題	別子山地域出荷体制等検討会を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月11日	場所	新居浜市別子山	
指導対象	地域おこし協力隊員（2人）、（有）別子木材センター（1人）、生産者（2人）	連携機関	新居浜市	
普及指導内容	<p>○別子山から新居浜市内の産直市へ出荷する生産者は各自で出荷を行っており、より効率的な出荷体制の確立が課題となっている。</p> <p>○そこで、久万高原町の道の駅「天空の郷さんさん」の集荷システム事例を紹介し、出荷体制整備について協議した。</p> <p>○また、産直市の活性化に向け、昨年度の秋じゃがいも、ミニトマト「プチぷよ」に続く新規導入品目の検討を行うとともに、栽培ほ場を視察した。</p>			
結果と今後	<p>○出席者から「天空の郷さんさん」への視察要望があったため、今後、久万高原農業指導班と連携しながら、視察研修を実施する予定。</p> <p>○新規導入品目は、（有）別子木材センターが今年度から栽培している「フェアリー・テイル」となったため、当室で栽培指導を行う。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="text-align: center;">  <p>「フェアリー・テイル」栽培ほ場</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>「プチぷよ」栽培ほ場</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%; margin-left: auto;"> <p>【フェアリー・テイル】 大きさは5～10cm程のゼブラ模様のミニナス。</p> <p>【プチぷよ】 皮が薄く、ぷにぷにした食感が特徴のミニトマト</p> </div> </div>				



標 題	校長会にて地産地消・食育推進事業を説明		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月9日、11日	場所	新居浜市教育会館、西条市役所会議室	
指導対象	新居浜市及び西条市の小学校校長	連携機関	新居浜市教育委員会、西条市教育委員会	
普及指導内容	<p>○地方局予算「デジタルを活用した地産地消・食育推進事業」の実施にあたり、新居浜市及び西条市の小学校校長会にて事業概要を説明した。</p> <p>○当事業で開設予定のポータルサイトを紹介し、食育や社会科などの授業や、家庭に持ち帰って閲覧する活用方法を提案し、ポータルサイトの利用及び農業体験、遠隔合同授業を実施する学校を募った。</p>			
結果と今後	<p>○紹介の結果、西条市の1校から実施したいとの申し出があり、今後、学校及び教育委員会と連携し、農業体験や遠隔合同授業の開催時期や協力農家の検討を行う。</p> <p>○さらに、今後は栄養教諭と連携し、授業でのポータルサイト活用方法やコンテンツの1つであるレシピ動画の内容を検討する予定。</p>			



標 題	一次産業女子組織活動の活発化を支援		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月15日	場所	東予地方局西条第2庁舎	
指導対象	一次産業女子ネットワーク組織 たべとうみん（6人）	連携 機関		
普及指導 内容	<p>○当組織は、会員が生産する農畜産物や農産加工品等の販売活動、消費者交流及び食農教育活動等に取り組む農業女子の活動をPRし、東予地域の農業を盛り上げることを目標に活動している。</p> <p>○今後、組織活動をさらに活性化するため、令和5年度総会における活動内容の検討に当たり、助言等の支援を行った。</p>			
結果と今後	<p>○昨年度に引き続き、西条農業高校生と連携し米を活用した加工品開発及び商品化に取り組む、組織の顔となる新商品の開発を目指すこととなった。</p> <p>○また、「旬菜ボックス」の新商品として検討中の米麴に関する研修会や酒造会社への視察に取り組むこととしている。</p> <p>○今後、効果的な情報発信に向けた研修会を開催し、組織やメンバーの農園のPRを行うことで組織活動のさらなる活発化や地域における認知度向上を支援する。</p>			
			<p>旬菜ボックス：メンバーが栽培した農産物を詰め合わせた商品</p>	


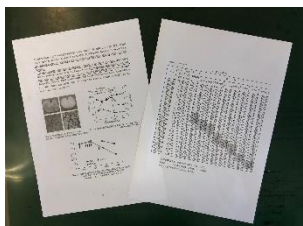
標 題	「天満の未来農業を考える会」が本格始動		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和5年5月7日	場所	井源寺（四国中央市土居町）	
指導対象	天満上集落農業者（35人）	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	<p>○当班は、天満上集落の次世代リーダー育成を通じ、当該リーダーを中心とした担い手への農地斡旋など、地域の農業・農地を守っていく活動を指導してきた。</p> <p>○令和5年2月の発起人会で集落活性化検討組織「天満の未来農業を考える会」の骨格を決定しており、今回、構成員35人出席の下、規約等を正式決定し、組織が本格始動した。</p>			
結果と今後	<p>○会長から「天満地区には3人の若い後継者が育っており、今後、国の補助事業等を活用する際には、こういう組織がないと活用できないので、自らが後継者を育てるという気持ちで組織を立ち上げた」との決意表明があり、今後、役員を中心に定期的な話し合いを重ね、天満の農業・農地を守っていく。</p> <p>○引き続き、当該組織が「地域計画」へとステップアップできるよう、市とも連携しながら、役員会等で情報提供やコンサルテーション等を実施する。</p>			
			<p>組織が本格始動</p>	



標 題	花木栽培実証ほの調査を開始		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月16日、29日	場所	西条市田野	
指導対象	花木生産モデル農家(1人)	連携機関		
普及指導内容	<p>○4月に設置したビバーナム・ティナス、メラレウカ、ピットスポラムの実証ほの調査を開始した。</p> <p>○ビバーナム・ティナスでは、環状はく皮による実付き数の増加効果、メラレウカでは収穫本数を増加させるせん定方法、ピットスポラムではできるだけ多く収穫するための採花位置の検討を行っている。</p>			
結果と今後	<p>○現時点で、ビバーナム・ティナスでは環状はく皮により、実の数が増加していることが目視でも確認できた。</p> <p>○今後、3品目とも収穫まで2週間ごとに生育調査と写真による生育過程を記録し、調査終了後は画像を駆使した資料にとりまとめ、講習会等で報告を行う計画である。</p>			
				<p>【環状はく皮】 枝の一部分の樹皮を狭い幅で環状に取り除くこと。葉で合成された同化養分の地下部等への転流を防ぐことで、花芽分化等を促進させる技術</p>
ビバーナム・ティナス		ピットスポラム		




標 題	いちご育苗講習会を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年4月28日、5月22日 5月31日	場所	西条市(神戸、丹原)	
指導対象	西条市内いちご生産者(30人)	連携機関	JA(えひめ未来、東予園芸、周桑)	
普及指導内容	<p>○令和5～6年産いちごの育苗が本格化するにあたり、育苗時期の栽培管理について講習会を実施した。</p> <p>○昨年度は酷暑の影響で「紅い雫」のランナーの発生が少なく苗が不足した生産者がいたため、寒冷紗の設置等、暑熱対策を重点的に指導した。</p> <p>○病虫害防除対策では、育苗時期からスタートさせる最新のハダニ防除対策の知見を紹介するなど、実践方法を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「いちごは‘苗半作以上’」という言葉があり、苗の良し悪しが定植後の草勢や収量に影響するため、今日学んだことを活かして健全な苗を作っていきたい」との声が聞かれた。</p> <p>○新居浜市の生産者には個別巡回にて講習会資料を配布し指導を行っている。なお、四国中央市については、6月中に講習会を実施する予定。</p>			
				<p>【いちごの育苗作業】 いちご生産者は定植用の苗を自家育苗で増殖している。4月頃から親株からランナー（つる状の茎で小苗が着生）が伸び始め、6月頃から小苗をポットに植え付け始める。7月中旬にランナーを切り離し、大きくした子苗を9月中下旬に栽培ハウスに定植する。</p>
講習会 個別の質問にも対応				


標 題	「甘平」の裂果軽減に取り組む		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月9日	場所	今治市菊間町	
指導対象	「甘平」生産者(2人)	連携機関	JA おちいまぱり	
普及指導内容	<p>○「甘平」は生育期に裂果しやすく、収量・品質に大きく影響を及ぼすことから、栽培環境の改善による裂果軽減を目指し、実証ほを設置した。</p> <p>○今年度は堆肥投入(3、4月に実施)、液肥の葉面散布、テンションメーター(土壌水分計)に基づくかん水管理、早期摘果による裂果軽減効果の実証を行う。</p> <p>○設置にあたり、生産者やJA指導員に対して実証内容や目的について説明し、今後の管理方法などについて意識統一を図った。</p>			
結果と今後	<p>○今後、6月に追加の液肥散布と早期摘果を実施するとともに、8月上旬から着果数及び裂果率調査を開始し、各処理が裂果率や果実品質に及ぼす影響について調査する。</p> <p>○実証結果は、生産者やJA指導員と共有し、裂果を軽減できる栽培管理に役立てる。</p>			
				<p>左：実証ほでの液肥散布 右：かん水管理のため設置したテンションメーター</p>


標 題	草刈り作業の安全講習会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月24日	場所	今治市乃万地区	
指導対象	かんきつ生産者(8人)	連携機関	えひめ農業未来カレッジ	
普及指導内容	<p>○かんきつ園における刈払機の事故を防止するため、農作業安全講習会を開催した。</p> <p>○刈払機は、身近な機械であるが事故も多く、安全対策の概要や事故実例を説明し、安全確保や作業後の刈払機の点検方法を説明した。</p> <p>○また、作業負担軽減や効率化、安全確保のため、遠隔操作で急斜面での草刈りが可能なラジコン草刈機を紹介した。</p> <p>○さらに、コンテナ運搬時の腰・背中への負担を軽減するアシストスーツの着用体験を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○刈払機の利用時には、プロテクターの着用や回転刃の保護カバーの確実な取り付け、疲労時には作業を中止するなど安全確保の徹底を指導していく。</p> <p>○また、刈払機の点検はあまり意識されていないようだったので、定期的に点検を推進するなど意識啓発に努める。</p> <p>○今後は猛暑時の熱中症対策も含めた農作業安全啓発に取り組み、次回は6月に青年農業者を対象に講習会を開催する。</p>			
				<p>左：農作業事故の状況報告 右：ラジコン草刈機の説明</p>


標 題	麦の品質向上に向け、適期収穫を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月15日	場所	JA おちいまばり	
指導対象	JA おちいまばり米麦部会（12人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	<p>○今治地区で栽培されている裸麦と小麦について、令和4年産で品質低下要因として硝子率が高まる傾向が見られたため、収穫期を迎えるにあたって研修会を開催し、適期収穫の徹底を指導した。</p> <p>○硝子率は、多肥や遅い時期の穂肥施用、早刈り（高水分含量）で高くなるため、現地巡回により裸麦の「適期収穫旗」を設置することで、収穫日を守り早刈りを避けるよう周知した。</p>			
結果と今後	<p>○品質低下は産地全体の評価を下げることにつながるため、参加者の硝子率と検査等級に対する関心は高かった。</p> <p>○今後、小麦の適期収穫に向けたほ場巡回により成熟状況を把握し、適期収穫指導を徹底し品質確保を図る。</p>			
<p>【硝子率と品質ランク】 硝子粒は、粉状質粒に比べて硬く、精麦に時間がかかり、精麦白度も低下するため、整粒中に占める硝子粒の割合（硝子率）が高いと品質ランク区分が下がる。硝子率の基準値は50%以下。60%超は2ランク下がる。</p>				
		担当者による指導		配布資料


標 題	食中毒予防と適正な食品表示を指導		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月22日	場所	今治市役所	
指導対象	今治市生活研究協議会（22人）	連携機関	今治保健所 生活衛生課	
普及指導内容	<p>○生活研究グループにおける味そ・漬物等の加工品の食中毒予防と適正な食品表示を指導するため、今治保健所と連携し、同協議会員を対象に研修会を開催した。</p> <p>○当室担当者が、関係法令の改正点や食品表示の留意事項について説明し、「営業届出制度」の創設と「営業許可制度」の見直し、加工食品の適正表示を指導した。</p> <p>○また、生活衛生担当者が食品衛生法の遵守による食中毒予防について呼びかけた。</p>			
結果と今後	○参加者の食品表示に対する関心は高く、適正な食品表示に向け個別相談でも対応する。			
				
担当者による指導（左：今治保健所		右：地域農業育成室）		



標 題	レモンでのドローン防除の効果実証の実施		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和5年5月25日	場所	しまなみ農業指導班 技術実証G	
指導対象	かんきつ生産者	連携機関	大信産業株式会社	
普及指導内容	<p>○ドローン防除は大幅な作業時間の短縮と労働負荷が軽減できるため、生産者の期待も大きい。かんきつ類での登録農薬はまだ少ないが、スマート農業技術の実用化に向け、実証散布を実施した。</p> <p>○ドローンによる農薬実証散布は「レモン」を対象とし、カンキツかいよう病については3月20日と5月25日の2回、訪花害虫については5月8日に行ない効果を検証した。</p>			
結果と今後	<p>○ドローン散布は、手散布に比べ農薬の付着ムラが大きいですが、散布後の訪花害虫の見取り数は手散布と同程度であった。</p> <p>○今後も技術実証を重ね、導入の可能性や改善点を検討するなど、防除効果データを蓄積し、ドローン防除技術の普及に生かしていく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>無人航空機で使用できる かんきつ登録農薬数 (R5.4月現在) 殺菌剤 7剤 殺虫剤 5剤</p> </div> <div style="display: flex; gap: 10px;"> <div style="text-align: center;">  <p>ドローン散布</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>薬剤の付着状況</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>訪花害虫(コアオハナムグリ)</p> </div> </div> </div>				



標 題	今治地域の鳥獣被害防止に向け、関係者が情報共有		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月24日	場所	JA おちいまばり	
指導対象	今治地域鳥獣害防止対策協議会（会長：今治支局地域農業育成室長）	連携機関	農産園芸課、自然保護課	
普及指導内容	<p>○「令和5年度第1回今治地域鳥獣害防止対策協議会」を開催し、管内関係者による情報共有と共通認識を図った。</p> <p>○当室担当者は、各種実証ほの実績報告や普及ビジョンについて説明したほか、関係団体からは補助事業の実績報告があった。</p> <p>○また、今治市・上島町から被害状況や関連事業実施状況について、県担当課からは人材育成事業や鳥獣保護管理計画について情報提供があった。</p>			
結果と今後	<p>○近年、捕獲できないヒヨドリ等の鳥害が増加傾向にあるため、防鳥ネット等を活用した対策の推進を申し合わせた。</p> <p>○今後、新規モデル集落の掘り起こしを行い、被害額減少に向け取り組むこととした。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-right: 20px;"> <p>【今治地域鳥獣害防止対策協議会】 今治市及び上島町における農作物への鳥獣被害防止対策を推進するため、年2回程度開催。管内市町・農業団体や地元猟友会等関係者が一堂に会し、被害状況や各種事業実施等の情報交換、今後の対策について地域内の連携方を協議する。</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>対策協議会</p> </div> </div>				


標 題	有名イタリア料理シェフを交えたマイナー野菜の生産・販売実証		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月18日	場所	ロカンダ デルクオーレ（東温市）	
指導対象	イタリア野菜生産者（2人）	連携機関	さいさいきて屋	
普及指導内容	○地方局予算事業の一環として今治市内の栽培実証で生産した15種類のマイナーなイタリア野菜類の商品評価を受けるため、全国的に有名なイタリア料理シェフの青江博氏を訪問し、商品評価や出荷規格等について聞き取るとともに今後の販売方法等について協議した。			
結果と今後	○青江氏からは、それぞれの品目について具体的な料理時の活用方法等が説明され、収穫方法や出荷規格等について助言を受けることができた。 ○また、同氏からは飲食事業者向けのほ場見学会、大型産直施設に併設されたオープンキッチンを利用した地元シェフによる料理教室の開催等について提案があり、今後は同氏の協力を得ながらそれぞれについて取り組むことになった。			
				
イタリア野菜の栽培実証		実証15品目の商品評価の聞き取り		青江氏による活用法の説明



標 題	マルシェ出展から広がる新たな販路開拓活動		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月16日、23日	場所	四国中央市の食品販売店等	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ	連携機関	今治市、今治地域観光協会	
普及指導内容	○局予算事業の一環として、事業者グループ「しまなみみんなのディッシュ」の「せとうちみなとマルシェ」への継続的な共同出展を支援しており、今回、マルシェで販売した食材に関心を持った自然食品販売店に対する販促活動を支援した。 ○また、これまでの出展で得たニーズを基にグループ員が新商品の開発等を行うため、県6次化サポートセンターと協議した。			
結果と今後	○協議の結果、四国中央市の自然食品販売店と有機農産物の生産・加工に取り組む(株)三皿園の取引が始まるとともに、グループの食材に関心を持っていた同市のベーグル店と取引開始に向けた商談を行った。 ○また、今治市内で椎茸を生産する(株)作田商事とサポートセンターとの協議の結果、新たに椎茸を使ったスイーツ商品の開発に取り組むことになった。			
				
自然食品販売店での有機商品の販売		取引開始に向けた協議（ベーグル店）		新商品開発に向けた検討



標 題	かんきつ基盤整備園での土づくりの重要性を啓発		機関名	中予地方局地域農業育成室																								
年月日	令和5年5月30日	場所	松山市下難波																									
指導対象	下難波地区営農部会（9人）	連携機関	中予地方局農村整備第二課、松山市JA えひめ中央																									
普及指導内容	<p>○下難波地区の樹園地整備受益者で構成する下難波地区営農部会において、営農計画の確認と工事の進捗状況及び農業用水利施設の整備・運用計画等について協議した。</p> <p>○当室は、工事完了園地で実施している堆肥投入（10 t 以上/10a）による土壌改良実証について調査結果を報告した。</p> <p>○併せて、整備園の土壌物理性・化学性を改善するため、継続的な土づくりの重要性を啓発した。</p>																											
結果と今後	<p>○同地区における整備計画面積 7.0ha の内、現在 3.1ha で営農を開始しており、今年度末までに新たに 1.3ha で整備が完了し、畑地かんがい施設も完成する予定。</p> <p>○農家は、造成園地における土づくりが、地力増進はもとより土壌流亡を防ぐためにも重要であることを再認識した。</p> <p>○今後、今年度末に植栽予定の園地で土壌改良を指導するとともに、既植栽園の定期的な土壌分析や緑肥（ソルガム、フェアリーベッチ等）による土づくり実証に取り組む。</p>																											
<div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 30%;">  </div> <div style="width: 35%; text-align: center;"> <p>基盤整備園地土壌の土づくりによる変化と既存樹園地の比較</p> <table border="1" style="margin: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>基盤整備園地</th> <th>既存樹園地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>土づくり</td> <td>未実施</td> <td>2年目</td> </tr> <tr> <td>状態</td> <td>粘りが強く、腐食物質がなく白っぽい</td> <td>粘りがやや弱く、砂とレキが混じる</td> </tr> <tr> <td>pH</td> <td>7.27</td> <td>6.79</td> </tr> <tr> <td>EC</td> <td>0.05 ms/cm</td> <td>0.06 ms/cm</td> </tr> <tr> <td>状態</td> <td></td> <td>長年の樹陰や堆肥等により、粘はさらに細かく、黒っぽい</td> </tr> <tr> <td>pH</td> <td></td> <td>6.88</td> </tr> <tr> <td>EC</td> <td></td> <td>0.20 ms/cm</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="width: 30%;"> <p>左：土壌改良状況の調査結果を報告 右：土づくり調査結果（土壌の変化）</p> </div> </div>						基盤整備園地	既存樹園地	土づくり	未実施	2年目	状態	粘りが強く、腐食物質がなく白っぽい	粘りがやや弱く、砂とレキが混じる	pH	7.27	6.79	EC	0.05 ms/cm	0.06 ms/cm	状態		長年の樹陰や堆肥等により、粘はさらに細かく、黒っぽい	pH		6.88	EC		0.20 ms/cm
	基盤整備園地	既存樹園地																										
土づくり	未実施	2年目																										
状態	粘りが強く、腐食物質がなく白っぽい	粘りがやや弱く、砂とレキが混じる																										
pH	7.27	6.79																										
EC	0.05 ms/cm	0.06 ms/cm																										
状態		長年の樹陰や堆肥等により、粘はさらに細かく、黒っぽい																										
pH		6.88																										
EC		0.20 ms/cm																										



標 題	ユーカリの安定生産対策を協議		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月30日	場所	中予地方局	
指導対象	中予地域ユーカリ生産対策協議会構成員（7人）	連携機関	松山市、東温市、JA 松山市 JA えひめ中央、花き研究指導室	
普及指導内容	<p>○地方局予算「観賞用ユーカリ産地拡大事業」に係るユーカリ生産対策協議会を開催し、安定供給及び産地拡大に向けた生産対策について協議した。</p> <p>○昨年度の成果として、排水性改善による株枯症の発生抑制や新規4品種の試作及び市場評価について報告した。</p> <p>○また、今年度の技術実証内容や生産動向について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、水田転換ほ場で多発する株枯症に対する排水技術実証を継続するほか、生産性の高い樹形や仕立て方法の実証に取り組む。</p> <p>○また、品種や出荷規格などの実需者ニーズを踏まえ、地域に適した品種を選定する。</p> <p>○引き続き、排水性改善による安定生産技術の確立及び新規品種導入等を図り、産地拡大を進める。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="width: 45%;">  </div> <div style="width: 45%;">  </div> </div> <p>左：今年度の実証計画を説明 右：アースオーガで耕盤層破碎によるほ場の排水性改善</p>				



標 題	県内初「媛かぐや」の産地育成にチャレンジ		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和5年5月18日	場所	松前町役場	
指導対象	「媛かぐや」産地育成推進会議会員 (9人)	連携 機関	伊予市、松前町、砥部町、JA全農えひめ、JAえひめ中央、JA松山市、農林水産研究所	
普及指導の内容	<p>○今年度から新たに取り組む「媛かぐや」産地育成事業（地方局予算）に係るさといも「媛かぐや」の産地育成推進会議を開催した。</p> <p>○本事業の目的と、収穫物の均一化に向けたセル育苗による栽培体系の構築や「愛媛農試V2号」との混植栽培実証、伊予地区における収穫適期の把握等に取り組むことを説明した。</p> <p>○また、(株)FM愛媛と連携した加工事業者等とのマッチングや直売所等でのイベント開催による認知度向上について協議した。</p>			
結果と今後	<p>○今後は、「媛かぐや」を高収益水田転作作物として位置付け、安定生産技術の確立と新たな需要創出に取り組み、県内初の産地化を目指す。</p> <p>○取組初年度となる今年は、6月上～中旬に実証農家3人がセル育苗を用いて4aで栽培を開始し、1tの生産量を目指す。</p>			
				<p>左：栽培体系構築について説明 右：「媛かぐや」セル育苗</p>



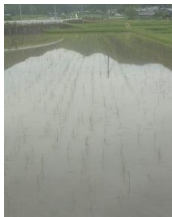

標 題	高冷地を活かしたシンテッポウユリの栽培実証を開始		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班 産地戦略推進室
年月日	令和5年5月17日、22日	場所	久万高原農業指導班	
指導対象	—	連携 機関	JA松山市	
普及指導内容	<p>○中予地域の平野部で栽培されているシンテッポウユリは、近年、需要期である彼岸時期の出荷において、夏場の高温による品質低下が問題となっている。</p> <p>○そこで、需要期の安定出荷に向けた高温期の栽培管理方法を検討するため、久万高原町の冷涼な気候を活かしたシンテッポウユリ栽培実証に取り組むこととした。</p>			
結果と今後	<p>○今年度は当班の実証ほ場1.6aに約3,300本の苗を定植したので、今後、定期的に生育状況を調査し、需要期の採花本数や品質を調査する。</p> <p>○実証結果は関係機関や町内農業者と共有し、高原地域での栽培適性を確認するとともに、安定出荷に向けた栽培管理技術の確立を図る。</p>			
		<p>実証ほ場内に シンテッポウユリを定植</p>		

標 題	「雑穀」で地域農業を活性化		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和5年5月30日	場所	JA松山市久万経済センター	
指導対象	久万高原ブランドづくり推進会議 構成員（10人）	連携 機関	久万高原町、JA松山市	
普及指導 内容	<p>○高齢者の生きがいをづくりと荒廃農地対策、地域食材の伝承を目的とする地方局予算「久万高原地域食材伝承事業」の推進会議を開催した。</p> <p>○今年度の事業計画と雑穀の生産振興、郷土料理の伝承活動及び新商品開発について協議した。</p> <p>○町内福祉施設が試作した地とうきびを使ったマドレーヌとクッキーを試食し、イベント販売や機能性等について意見交換を行った。</p>			
結果と今後	<p>○雑穀の生産振興については、展示ほ(地とうきび、たかきび、こきび)を設置し、技術普及を図るとともに、新規栽培者の掘り起こしや栽培希望者への苗配布を行うこととした。</p> <p>○また、町内の宿泊施設や道の駅等を対象とした調理講習会の開催や、雑穀を素材としたメニューの商品化に取り組み、雑穀を広くPRし、消費拡大を進めることとした。</p> <p>○引き続き、町内に伝わる郷土料理の伝承や新たな活用方法を探索しながら雑穀の生産拡大を図り、地域農業の活性化を図る。</p>			
				<p>左：生産振興等について協議</p> <p>右：地とうきびを使った菓子を試作品</p>

標 題	「さくらひめ」フラワーアレンジメント体験会を開催		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月7日	場所	県農林水産研究所花き研究指導室	
指導対象	小学生、保護者等（26人）	連携 機関	東温市商工会女性部	
普及指導 内容	<p>○「さくらひめ」の子供への認知度向上と母の日における利用促進を図るため、「さくらひめ」を全国に発送している東温市商工会女性部と連携し、フラワーアレンジメント体験会を開催した。</p> <p>○栽培ハウスにおいて、切り花と鉢物の違いを説明した後、PRチラシを用いて切り花を長く楽しむ方法や鉢物の育て方について紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○参加した小学生は「ハウスで本物を見ることができ、よくわかった」、保護者からは「愛媛を代表する花と知り、愛着が湧いた」との声が聞かれた。</p> <p>○当体験会はテレビや新聞でも報道され、同女性部には母の日用として花束の注文が寄せられる等の反響があった。</p> <p>○引き続き、販売促進と夏季の自家育苗技術の実証等を行い、「さくらひめ」生産者の収益向上につなげていく。</p>			
				<p>左：ハウスでの栽培説明</p> <p>右：親子でフラワーアレンジメント体験</p>

標 題	高級菓子原料向けのびわ収穫始まる		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年5月30日	場所	JA えひめ南宇和島営農センター	
指導対象	加工用びわ生産者(5人)	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○びわの収穫開始にあたり、果実の着色や大きさなどの留意点を説明するとともに、傷み軽減のため丁寧な取扱方法を指導した。</p> <p>○今年産は1月の寒波の影響で出荷量はやや少ない見通しであるものの、品質は良いため、出荷調整に細心の注意を払うよう促した。</p> <p>○また、地方局予算「高級菓子用くだもの産地確立事業」で取り組んでいる「袋かけ作業の省力化」の実証結果や、鳥獣害防止対策等について指導した。</p>			
結果と今後	○初出荷は6月2日で、週3日の受入れを予定しており、引き続き、省力的な袋かけ方法の検討や正品率向上に向けた袋資材の検討を行う。			
				<p>左：出荷目合わせ会 右：袋かけ作業の省力化実証</p>

標 題	広見川等への農業排水軽減に向けた取組み		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和5年4月27日～5月31日	場所	宇和島市三間町ほか	
指導対象	管内水稻栽培農家	連携機関	広見川等農業排水対策協議会（JA えひめ南、宇和島市、松野町、鬼北町他）	
普及指導内容	<p>○四万十川支流の広見川等への農業濁水軽減を図るため、田植時期の浅水代かきや止水板設置の励行、河川の巡回調査などを実施している。</p> <p>○協議会総会では、代かき時の石こう資材散布により、水質改善に一定の効果が確認されたことや、2人の農家がこの方法で栽培した米を自然環境米「鬼北のせせらぎ」「三間のせせらぎ」として販売したことなどを紹介。また、4～5月にかけて関係機関と河川水の透明度を調査するとともに、四万十川へ向かう各支流を巡回調査した。</p>			
結果と今後	<p>○今年度は濁水軽減効果が見られた石こう資材の施用が拡大している。</p> <p>○昨年、自然環境米として販売した農家が今年度も取組みを継続する意向を示すなど本取組が定着しつつあるため、引き続き、環境に配慮した水稻栽培を支援する。</p>			
				<p>左：河川の巡回 右：河川水の透明度調査</p>

標 題	「高精度水稲湛水直播機」を利用した水稲の直播栽培を実証		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和5年5月8日～	場所	鬼北町清延	
指導対象	水稲生産者、JA えひめ南	連携機関	JA 全農えひめ、農薬メーカーほか	
普及指導内容	<p>○田植え作業の省力化を目的に、鬼北町の大規模水田農家のほ場で「高精度水稲湛水直播機」を利用した水稲直播栽培の現地実証を行った。</p> <p>○種子は、殺虫・殺菌剤と酸素供給剤等をコーティングした「リゾケア種子」を使用し、従来のコーティング種子との比較を行った。</p> <p>○「高精度水稲湛水直播機」を利用した点播では、播種1か所当たり（1株に相当）の種もみ数が収量や品質に大きく影響することから、念入りな種量の調整（5～7粒）が必要になるなど、播種のポイントを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○6月5日に実施した播種後の調査結果では、従来のコーティング種子と比較して、苗立ちが良いことが確認でき、生産者からは「水管理が容易になり、カラスの害も少ない」との感想が聞かれた。</p> <p>○引き続き生育や収量、品質等を調査し、鬼北地区の大規模生産者への普及を図る。</p>			
				
	高精度水稲湛水直播機での播種	各コーティング種子の苗立ち状況 (左：リゾケア種子、右：従来のコーティング種子)	苗の草高	苗の草高

標 題	「河内晩柑」のせん定講習会で省力化を推進		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年5月18日、19日	場所	愛南町御荘菊川、緑、城辺、御荘長月	
指導対象	JA えひめ南味楽共選南宇和支部 生産者	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	<p>○「河内晩柑」のせん定作業にあたっては、園地状況が独立樹園、密植園、自根の発生の有無によって作業内容を変更することが重要である。</p> <p>○これまでは独立樹の講習を行う場合がほとんどで、密植園のせん定、自根対策の講習は十分でなかった。</p> <p>○今回の講習会では、密植園の縮間伐や自根対策を取り入れ、園地状況に応じた処理をするよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者からは、「密植で樹が高くなって作業が大変だった。低樹高化できるよう改善したい」との声があった。</p> <p>○引き続き、縮間伐や自根対策について調査を継続し指導に活用する。</p>			
				
	園地タイプ別処理	処理方法の説明	低樹高化方法の実践	


標 題	「ひめの凜」全量プレミアム生産を目指す		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和5年5月19日	場所	愛南庁舎	
指導対象	南宇和「ひめの凜」栽培グループ	連携機関	JA えひめ南南宇和営農センター	
普及指導内容	<p>○令和5年産「ひめの凜」の作付けを前に、愛南町の天候等の地域性を考慮した栽培により全量「プレミアム」品質となることを目標に、地域独自の栽培研修会を開催した。</p> <p>○研修内容は、昨年度の品質低下要因に対応し、中干しのタイミングなど注意すべき栽培管理のポイントや病害虫防除のタイミングを確認した。</p> <p>○栽培上のポイントとなる水管理や追肥の時期については、愛南町における移植時期別生育ステージの目安を提示の上、各々の移植時期に応じた作業スケジュールの組立てと計画的な実施を指導した。</p>			
結果と今後	<p>○過去4年の栽培実績に基づき、地元の気象条件等に応じた栽培管理のポイントを確認することで、プレミアム米の生産に向けて意識を高めることができた。</p> <p>○今後も、的確な時期に研修会やほ場巡回を実施し、新しい技術や資材展示などによる情報提供により積極的に支援していく。</p>			

標 題	生産者がスイートコーンの美味しさを直接アピール！		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月28日	場所	道の駅みま	
指導対象	スイートコーン生産者	連携機関	道の駅みま	
普及指導内容	<p>○産直市の「推し」を紹介する特設コーナーにスイートコーンが登場。</p> <p>○旬や特別感を演出し、消費者へのアピール力を高める取組みを進める当室は、生産者参加型の積極的なPR活動を提案し、試食を交えながらの販売を支援した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者ならではの美味しい食べ方やこだわりの紹介は、PR効果抜群で用意した50本余りは1時間ほどで完売した。</p> <p>○当室は、年間を通じた品目提案や栽培指導を行うこととしており、特設コーナーの拡大や販売手法の工夫などについて生産者や直売所と共に検討を重ね、出荷意欲の向上を図っていく。</p>			






左：こだわりや特長を説明する生産者



右：旬や珍しさを打ち出す「推し」のコーナー


標 題	「媛かぐや」の栽培準備講習会を開催		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月16日	場所	道の駅みま	
指導対象	道の駅みま出荷者(10人)	連携機関	道の駅みま、県農林水産研究所、農産園芸課	
普及指導内容	<p>○道の駅みまの活性化に向けた品目ラインナップの充実を目指す当室は、県育成さといも「媛かぐや」の栽培準備講習会を開催した。</p> <p>○畝立てや施肥、初期防除、ほ場準備から定植までの留意点について丁寧に説明した。</p> <p>○また、県農林水産研究所職員が初期生育と生産物の均質化を目的としたセル苗づくりを解説したのち、参加者全員でセル苗づくりを実践した。</p>			
結果と今後	<p>○参加者は、自身の生産面積に応じた施肥設計や期間中のかん水管理などについて質問するなど、昨年度以上に生産意識が高まっていることを確認した。</p> <p>○今後、6月下旬に予定している栽培講習会では、活着以降の十分な初期生育を促す管理の徹底を図っていく。</p>			
				<p>左：ほ場準備から定植までを入念に説明</p> <p>右：栽培する全員でセル苗づくり</p>



標 題	青梅出荷拡大へ若手農家がチャレンジ		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月24日	場所	松野町内うめ園地	
指導対象	うめ生産者	連携機関		
普及指導内容	<p>○昨年、豊作で梅の価格が下落したため、若手生産者らはより高単価が期待できる販売形態として青梅での出荷に取り組んでいる。</p> <p>○需要の高まりや販路拡大の可能性を見据えて出荷量の増加を狙う一方、従来の完熟果を採取する収穫形態から手摘み収穫に変わること、作業負担の変化や品質差が想定されるため収穫時調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○青梅は、果実の着色が進むまでの収穫・販売が短期に集中するため、出荷量の増加に向けた労力確保が課題となる。ただ、早朝作業が必須となる完熟収穫に対し、青梅は日中作業が可能で、ほぼ立ったまま収穫できるメリットも大きい。</p> <p>○今後、収穫後の品質変化及び完熟までの果実肥大量の調査を実施し、青梅出荷の有利性を検討していく。</p>			
				<p>左：収穫時の姿勢 (ほぼ立った状態)</p> <p>右：保存状態の違いによる色の变化</p>


標 題	つるむらさきの産地化に向けた取組み		機関名	南予地方局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月24日	場所	JA えひめ南三間営農センター	
指導対象	つるむらさき生産者(16人)	連携機関	JA えひめ南、(株) 神果神戸青果、県大阪事務所	
普及指導内容	<p>○夏場の葉物野菜として生産拡大が進む本品目の生産技術の向上を目的に栽培講習会を開催した。</p> <p>○湿害対策や切り戻しによる草勢管理、病害虫対策など、安定的な収穫を目指す管理ポイントについて説明した。</p> <p>○また、需要拡大を目的に、今年度新たに取組む販促活動について、生産者への理解と協力を求めた。</p>			
結果と今後	<p>○5月末時点の生育は順調で、6月から徐々に出荷が本格化していく見込み。</p> <p>○販促活動について生産者から熱心な質問や提案があり、需要拡大への期待感がうかがえた。</p> <p>○6月中旬～下旬、関西圏の市場や県内飲食店等でのPR・販促活動を予定している。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【つるむらさき】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏が旬の野菜で、別名セイロンハウレンソウ（インドのハウレンソウ）とも呼ばれ、その栄養成分はハウレンソウと同等以上。 ・宇和島市三間地域を中心に産地化が進み、令和4年度は36tの出荷実績がある。 </div> <div style="text-align: center; margin: 0 20px;">  </div> <div style="text-align: center; margin-left: 20px;">  <p>栽培管理ポイントを丁寧に説明</p> </div> </div>				

標 題	作業の労働力確保に向けた意見交換を実施		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和5年5月8日	場所	伊方町庁舎	
指導対象	伊方・町見・大久・三崎地区雇用促進協議会代表者（8人）	連携機関	伊方町	
普及指導内容	<p>○伊方町におけるアルバイト雇用などの労働力確保策について、4地区の雇用促進協議会代表者と意見交換を実施した。</p> <p>○各地区の雇用状況を聞き、今後の要望などについて意見交換を行うとともに、新たな労働力確保に向けて「農福連携」の取組を紹介した。</p>			
結果と今後	<p>○各地区代表者からは「収穫以外の作業にもアルバイトを雇用したい」「ちょっとした労働補完が可能なシステムがあればいい」といった意見が出された。なお、伊方地区と三崎地区では、摘果やサンテ掛けなど収穫以外の作業でもアルバイトを雇用する予定。</p> <p>○また、農福連携では、依頼できる作業や園地の立地条件等に関して不明点が多いとの意見があったことから、就労施設側の意見も聞きながらかんきつ作業におけるマッチングを進めていく。</p> <p>○今後、農福連携のほかに、アルバイトの地域内連携や作業受委託ヘルパー制度等の体制整備も検討しており、更に地域の要望を確認しながら支援していく。</p>			
<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>【雇用促進協議会】</p> <p>主に収穫時期の労働力確保のため、アルバイトなどの雇用にあたっての取り決めや、宿泊先の確保などを行う会。地区ごとで結成し、八西管内には8地区ある。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-left: 20px;">  <p>意見交換する地区代表者</p> </div> </div>				

標 題	有名シェフが大洲産ラディッキオを視察		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年5月17日	場所	大洲市内現地ほ場	
指導対象	ラディッキオ生産者	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき、食ブランドマーケティング課	
普及指導内容	<p>○えひめ食のアンバサダーに就任したイタリア料理界の巨匠落合務シェフによる生産現場の視察にあたり、商談までを見据え、関係機関一体となった生産者による視察対応をコーディネートした。</p> <p>○生産者には、この機会に栽培の現状や産地化を目指していることなどを十分にアピールするよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○落合シェフは、若い農業者が新しい取組として栽培していることに興味を示し、ラディッキオの品質を確認していた。今後、著名な料理人からの宣伝効果が期待できる。</p> <p>○また、流通販売を担当している JA とシェフ側との間で、商談も行われた。</p> <p>○今後、関東方面への物流が課題になることから、具体的な対策を検討していく。</p>			
<p>【ラディッキオ】 イタリア原産の西洋野菜。レタスの仲間。鮮やかな紫色と程よい苦みが特徴で、サラダや付合わせ材料として人気が高まっている。</p>				
				
			落合シェフ（左）に説明する生産者	

標 題	「シャインマスカット」の開花異常「未開花症」の解明に向けて		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和5年5月23日	場所	内子町内園地	
指導対象	JA 愛媛たいきブドウ部会員（2人）	連携機関	JA 愛媛たいき、県果樹研究センター	
普及指導内容	<p>○全国的な問題となっている原因不明の開花異常「未開花症」について、管内でも複数の園地で発生していることから、部会員全戸を対象とした原因究明に向けたアンケート調査の内容を協議した。</p> <p>○なお、当班では、被害軽減対策として、症状が出にくいとされる房の上部の支梗（しこう：枝分かれ）を残す方法を推進している。</p>			
結果と今後	<p>○協議の結果、換気状況や雨よけ施設の形状に関する設問、生産者が感じている要因等をアンケートに反映することとした。</p> <p>○今後、6月にアンケートを配布・集計し、発生園地の傾向等を調査する。</p> <p>○また、部会員以外に対しては、「未開花症」の発生園地がないか適宜聞き取りし、確認される場合はアンケート調査を実施する。</p>			
<p>【未開花症】 開花期に花冠が外れずに正常に開花せず、粒が奇形となり商品価値が著しく低下する。先端部に発生しやすく、開花期に差し掛かるとつぼみの表面が変色する。</p>				
				
		正常な開花	未開花症のつぼみ	アンケート項目について協議

標 題	西予市に若手女性農業者組織誕生		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和5年5月15日	場所	西予市狩江地域づくり活動センター	
指導対象	管内若手農家女性（5人）	連携機関	西予市	
普及指導内容	<p>○当室は、明浜地区の女性農業者による地域活性化に向けた拠点組織の設立を目指し、活動方針や規約に盛り込む内容等について検討を重ねてきた結果、15日に設立総会が開催された。</p> <p>○総会では活動計画を協議し、次世代のリーダーとして農業技術の向上や仲間づくり、地域の魅力発信及び消費者との交流活動等に取り組むことを申し合わせた。</p> <p>○組織名称は、様々なことに挑戦するという意味を込めて「フレッシュあぐり媛～YATTE-MIYO☆LAB～」とし、会員8人（会長：大谷りえ氏）で発足することとなった。</p>			
結果と今後	○今後も関係機関と連携し、組織活動を強化するため、補助事業の活用支援に取り組むとともに、地域を元気にする活動を支援していく。			
				
			<p>左：活動計画等を協議 右：参加メンバー</p>	

標 題	ネギ産地づくりに係る業務用ネギ需用動向調査を実施		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月1日～	場所	(株)百姓百品村	
指導対象	(株)百姓百品村	連携機関	食ブランドマーケティング課、薬務衛生課	
普及指導内容	<p>○西予地域における青ネギの産地拡大を促進させるためには、新たな販路開拓が大きな課題となっている。</p> <p>○知名度や販売力向上に向け、需用動向を踏まえた作付体系及び調整方法を検討するため、県内飲食店をターゲットにした取引意向等の調査を提案するとともに、アンケートを作成し調査を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○5月に一般社団法人愛媛県調理師会、一般社団法人全日本司厨士協会四国地方愛媛県本部、日本中国料理協会愛媛県支部に Logo フォームにより調査協力を依頼しており、7月以降に取りまとめる予定。</p> <p>○調査結果は(株)百姓百品村と共有し、需要動向を踏まえたマッチング等販売促進活動を支援する。</p>			
			<p>【株式会社百姓百品村】 平成20年に耕作放棄地を借り受けて青ネギを生産販売する農業生産法人として設立。地域の青ネギ契約農家とともに産地活性化に取り組むほか、グループ会社の株式会社野村福祉園が農福連携により調整作業等を担う。</p>	
	調査方法（Logo フォームを活用したスマートフォン等での調査）			

標 題	岡山理科大学との連携によるかんきつ産地での新たな鳥害軽減対策の検討		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月9日	場所	岡山理科大学獣医学部（今治市）	
指導対象		連携機関	岡山理科大学	
普及指導内容	<p>○本県の令和3年度鳥獣被害額は約3億8千万円で、南予地域が全体の67%（かんきつ被害が中心）を占め、この内、鳥類は約7千万円でイノシシに次ぎ被害が深刻である。</p> <p>○被害防止効果の高い防鳥ネットは、傾斜園地では設置費用がかさむため導入は進んでおらず、現場からは安価で有効な対策の開発が求められている。</p> <p>○この度、鳥害軽減によるかんきつ産地の維持・発展を図るため、同大学と連携し、本県初の試みとなる高周波音を利用した鳥類の飛来抑制技術の効果検証を進めることとなった。</p>			
結果と今後	<p>○現状、本技術によるカラスやカモでの効果は実証されているが、ヒヨドリ、ムクドリでの検証は行われていない。</p> <p>○傾斜や起伏のあるかんきつ園地での高周波音の伝達方法等も未検証であるため、主産地の八幡浜において、生産者、JA等の協力を得ながら、対象かんきつの選定、装置の最適な設置位置や角度の検討、対象鳥類の忌避効果等を検証する。</p>			
<p>【高周波音を利用した鳥獣害軽減技術】 鳥獣のみが不快に感じる高周波や超音波を発生させ、侵入などを防止する技術。農業分野以外にも公園やコンビニでのモスクイト音、施設等でのネズミ除けに使用される。</p>				

標 題	省力機械によるさといもの土入れ実演会を開催		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和5年5月25日	場所	西予市野村地区	
指導対象	さといも生産者（13人）	連携機関	JAひがしうわ、農水研、西予市	
普及指導内容	<p>○西予市では近年、「愛媛農試V2号」が導入され、さといもの産地づくりが進められており、当室は適切な栽培管理技術の普及による産地化を支援している。</p> <p>○この度、基本的な栽培技術である「土入れ」について、慣行の一輪管理機と省力的なハイクリアランス仕様の乗用管理機を比較・実演し、その効率性を周知するとともに、今後の栽培管理について指導した。</p>			
結果と今後	<p>○生産者からは、「省力機械は作業時間や身体的負担が減少するため、共同利用できたら良い」「昨年は土入れしなかったが、今年は取り組みたい」との声があった。</p> <p>○また、関係機関と規模拡大を目指す生産者が連携し、「西予さといも推進ネットワーク」が設立されたため、今後は同ネットワークを軸に定期的なほ場巡回指導や省力化を図り、さといもの産地化を目指す。</p>			



実演機の説明風景





ハイクリアランス仕様乗用管理機の実演



【土入れ】




畝の上に土をのせ、芽焼け防止や正常な芋の肥大を促すことで、品質低下防止、増収が見込める。

【ハイクリアランス仕様乗用管理機】

一般的な乗用管理機に比べて車高が高く、畝をまたいで土入れや防除等の管理作業が容易な管理機。

標 題	麦の採種ほⅡ期審査の実施		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年5月1日、5月2日	場所	松前町・伊予市（5地区）	
指導対象	麦種子栽培者ほか（35人）	連携機関	JA（全農、松山、えひめ中央）、中予局地域室及び伊予指導班、県農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○「ハルヒメボシ」の採種ほ場における管理状況を把握し、栽培者やJA営農指導員等に指摘事項を伝えるため、Ⅱ期審査を180ほ場で実施した。</p> <p>○さらに、生産者に個票での通知を行い、刈取り適期の打ち合わせを関係機関と実施し、地区ごとの計画的な刈取りを指導した。</p>			
結果と今後	<p>○病害虫・雑草の発生や倒伏状況等の事前審査結果を元に、1ほ場毎に審査した結果、種子として不適格なほ場は14ほ場となった。</p> <p>○また、事前審査で黒節病の発生が散見されていたので除去を指導したところ、本病で不適格となるほ場はなかった。</p> <p>○引き続き、計画的な刈取りを指導し、優良種子の安定確保につなげる。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>全面倒伏</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>雑草発生による生育不良</p> </div> </div>				

標 題	さといも出芽状況等をリアルタイム通信		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年5月29日	場所	西条市、今治市さといもほ場	
指導対象	普及指導員	連携機関	さといも生産者 東予局及び今治支局の両地域室	
普及指導内容	<p>○さといも生産に関する指導力向上や理解促進を図るため、優良ほ場の畝幅や土入れ、出芽状況等についてリアルタイム農業普及ネットワークを用いて配信・共有した。</p> <p>○現地の普及指導員や生産者が現地状況を配信しながら質疑に答えた。</p> <p>○また、害虫セスジスズメの発生が見られたため、栽培状況を観察・対策指導を徹底するよう指導した。</p>			
結果と今後	<p>○配信先からは活発な意見がなされ、現地の生産者とリアルタイム通信で直接質疑応答ができ、効率的であった。</p> <p>○撮影した動画は、リアルタイム農業普及ネットワークのデータベースに掲載し、若手普及職員等の理解促進に役立ててもらおう。</p> <p>○今後も生育状況等をリアルタイム通信し、普及指導員の的確な指導力向上を図る。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>リアルタイム通信</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>配信された動画</p> </div> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>【リアルタイム農業普及指導ネットワーク】配信映像による病害虫等の遠隔診断や専門家の助言指導を可能とするアプリケーション。今後、蓄積した映像のデータベース化や技術情報の提供等を行う予定。</p> </div>				

標 題	さといも優良種芋増殖技術講習会を開催		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和5年4月18日、5月19日	場所	農林水産研究所 野菜花き調整室	
指導対象	さといも技術指導者（延べ34人）	連携機関	農林水産研究所	
普及指導内容	<p>○農林水産研究所との共催で、さといものセル苗による優良種芋増殖技術について講習および実技指導を実施した。</p> <p>○栄養繁殖性で自家増殖が容易なさといもについて、種子更新の重要性や必要性を周知し、生産現場で優良種芋を確保するためのセル苗作成および育苗手法を指導した。</p> <p>○4月に親芋の副芽の萌芽を促す伏せ込み、5月に伸長した副芽をセルトレイに移植する切り出し作業を実施した。</p>			
結果と今後	<p>○本講習会を通じて、新たに2JA(JA ひがしうわ、JA えひめ未来)でセル苗による優良種芋増殖技術を導入した種芋生産の取組みが始まり、県全体で合計7JAに拡大した。</p> <p>○今後も生産現場と連携し、優良種芋増殖技術の定着による種苗生産体制の確立を目指す。</p>			
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>親芋の選定</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>親芋の伏せ込み作業</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>副芽の切り出し作業</p> </div> </div>				

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898-68-7322 FAX:0898-68-3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896-23-2394 FAX:0896-24-3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898-23-2570 FAX:0898-22-9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897-72-2325 FAX:0897-72-1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089-909-8762 FAX:089-909-8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892-21-0314 FAX:0892-21-2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089-982-0477 FAX:089-983-2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895-22-5211 FAX:0895-22-1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895-45-0037 FAX:0895-45-3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895-72-0149 FAX:0895-73-0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894-23-0163 FAX:0894-23-1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893-24-4125 FAX:0893-24-5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894-62-0407 FAX:0894-62-5543